

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日		校長名	所在地																																		
長野美術専門学校	昭和51年4月1日		小林 勝彦	〒380-0935 長野県長野市中御所1丁目10番10号 (電話)026-227-3229																																		
設置者名	設立認可年月日		代表者名	所在地																																		
学校法人クリエイティブA	平成7年10月31日		理事長 小林 勝彦	〒380-0935 長野県長野市中御所1丁目10番10号 (電話)026-227-3229																																		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士の付与	高度専門士の付与																																	
文化・教養	文化教養専門課程	ビジュアルデザイン科 2年制		平成22年文部科学省 告示第153号	—																																	
学科の目的	実践的な専門教育により、視覚伝達が関わるデザイン業に必要な知識・技術・技能を育成し、社会に有用な職業人を輩出する。																																					
認定年月日	平成26年3月31日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は 総単位数	講義	演習	実習	実験																																
2年	昼	2,208時間	528時間		—	—																																
単位時間																																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員のうち)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																
80名		65名	0名	7名	16名	23名																																
学期制度	■前期 4月1日～9月30日 ■後期 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 1 学修評価時出席日数においては、おおむね2/3以上の出席を目安とする。 2 単位修得の認定及び成績の評価は、試験又はこれに代わるべき方法によるものとする。これに代わるべき方法は下記成果物とする。 実技系＝課題作品 / 講義系＝レポート等 尚、成果物の設定は科目単位数に見合った内容を設定する。 3 各授業科目の成績は、優、良、可、不可に分け、優、良、可を合格とする。																																		
長期休み	■学年始：3月6日～4月7日 ■夏季：7月3日～8月25日 <small>※夏期授業期間と称し、この期間に行う科目もある。 履修する科目により、休業期間は異なる。</small> ■冬季：12月20日～1月3日 ■学年末：3月12日～4月6日		卒業・進級条件	2年以上の在籍期間。 本校の履修規定に従って履修登録をし、1,700単位時間及び62単位を修得した者に対し、学校長が認定する。																																		
学修支援等	■クラス担任制： 無 ■個別相談・指導等の対応 修学状況について問題のある学生は、定例で行われる職員会議において、教務から現状報告がなされ、必要とあれば面談を行う。状況の改善が見られない場合は、学生の保護者（保証人）宛に文書で報告し、希望により保護者面談を行う等の対応をしている。		課外活動	■課外活動の種類 課外に学生組織「美専学生会」を設け、主体的な活動を奨励支援している。地域社会等からの学生生活要請には担当教員を配し、支援を行なっている。 ■サークル活動： 有																																		
就職等の状況	■主な就職先、業界等（平成28年度卒業生） デザイン会社/広告代理店/写真スタジオ/印刷会社 看板製作/一般企業の販売促進部及び制作部/ほか ■就職指導内容 個別進路相談、面接・履歴書指導、企業説明会 キャリア授業 等 ■卒業生数 11 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 8 人 ■就職率 8 : 9 88.8 % ■卒業生に占める就職者の割合 8 : 11 72.7 % ■その他 ・進学者数 0 人 ・自主活動等 2 人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な資格・検定	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種※</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レタリング技能検定 3級</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定 3級</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定 3級</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>日本語検定 3級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Illustratorクリエイター 能力認定試験</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>Photoshopクリエイター 能力認定試験</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>フォトマスター検定</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> ※①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄			資格・検定名	種※	受験者数	合格者数	レタリング技能検定 3級	③	10	3	ビジネス能力検定 3級	③	10	9	色彩士検定 3級	③	10	7	日本語検定 3級	③	9	7	Illustratorクリエイター 能力認定試験	③	10	10	Photoshopクリエイター 能力認定試験	③	9	8	フォトマスター検定	③	4	3
資格・検定名	種※	受験者数	合格者数																																			
レタリング技能検定 3級	③	10	3																																			
ビジネス能力検定 3級	③	10	9																																			
色彩士検定 3級	③	10	7																																			
日本語検定 3級	③	9	7																																			
Illustratorクリエイター 能力認定試験	③	10	10																																			
Photoshopクリエイター 能力認定試験	③	9	8																																			
フォトマスター検定	③	4	3																																			
中途退学の現状	■中途退学者 平成28年4月1日時点において、在学者38名（平成28年4月1日入学者を含む） 平成29年3月31日時点において、在学者37名（平成29年3月31日卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 学業不振 ■中退防止・中退者支援のための取組 教務において担当教諭が、就学にあたっての問題を拾いあげ、解決をサポートすることで退学防止に努めている。 また、科目担当教師と連携し、本人対処や家庭対処への取組の検討を組織的に行っている。																																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 クリエイティブA 奨学特待制度、入学金減免制度 ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象																																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無																																					
当該学科のホームページURL	http://www.n-bisen.ac.jp																																					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他教育課程の編成を行なっていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業との連携に関する基本方針

教育課程の編成にあたっては、地域を中心としたこれからの産業界に求められる実践的な専門能力を育成していくために、専門分野の人材の輩出先の関連業界からの人材育成の要請や、意見及び授業協力などによる連携した教育活動の実施計画をふまえ、教育内容を研究し、適切に開設された授業科目を配列する。
また開設、編成された授業及び課程の改善を図るため、授業科目についての評価及び教育の成果の検証等について、連携企業等の協力により、恒常的に行うものとする。

(2) 教育課程編成委員会の位置付け

専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等との連携による、専門分野の動向や必要となる知識・技術・技能について、本委員会にて把握・分析し、授業科目の設置や授業方法の改善策を策定することで、本校の専門課程における実践的な職業教育の教育課程の編成に反映させる。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

氏名	所属	任期	種別※
辻 圭介	長野県デザイン振興協会	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	①
轟 久志	長野県デザイン振興協会	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	①
大久保 清一	有限会社サンライズ	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	③
戸田 良久	有限会社長野デザインセンター	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	③
寺島 克己	クリエイティブファクト株式会社	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	③
中村 武志	有限会社アドフォート・トリム	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	③
小林 勝彦	長野美術専門学校	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	
松本 直樹	長野美術専門学校	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	
塚田 佳子	長野美術専門学校	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	

※①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年会開催数及び開催時期

本校教育課程編成委員会は、年2回開催される。

(開催日時)

第1回 平成29年11月30日 15:30～17:30 (予定)
第2回 平成30年 2月 15:30～17:30 (予定)

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

前年度委員会の意見を受け、本年度は下記の点の強化・改訂を図った。

- ・履修登録プログラムや各期切り替え時に行われるオリエンテーションにおいて、年間の流れや各期の目的、目標などを確認させる。
- ・映像教科内容の見直し。現場実習やスポット講師の招聘により、映像作品の実践性を強化する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行なっているとのこと。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校における企業等との連携による実習・演習は、専攻分野に関する専門性（以下、専門性）がいかに職業に活かされ、実社会と関連しているかを学び、これからの社会に有用な専門的知識、技術・技能を実践的に育成するものである。
連携する企業等は専門性の発動をもって実際に社会と関わる職業体とし、専門的な職業人の育成に社会的利益を見出すことを重んじる職業体とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実践的な課題に取り組む学習（PBL）を通じて、様々な業種でのクリエイティブワークに必要な共通普遍の能力を身に付けることを主な内容としている。その他には技術上や職業上の基礎的な知識、あるいは職業の社会的役割についての講義や、インターンシップなどにおける連携学習を産業界や行政等の企業・機関から得ている。また、プリンター製造会社からの派遣講師によるカラーマネジメントの講義など、汎用性のある実践学習を行なっている。

(3)具体的な連携の例 ※代表的な5科目について記載

科目名等	科目概要	連携企業等
キャリア講座	個人、グループ、全体で行うワークショップを通して、自己を探求します。講義だけでなく体を動かすワークショップも実施します。インターンシップでは働く姿から仕事に対する姿勢を学び実践します。自己を見つめ、ふりかえり、学びに対する目的を確認し、将来のビジョンの創造性につなげることを目標とします。	デザイン事務所、映画館、お土産雑貨商品開発会社、撮影スタジオ、印刷会社、広告企画会社、映像制作会社など
プロジェクトワーク 演習	企業からの講師派遣による授業です。架空のクライアントからの依頼を受け、それを元に組織的に企画案をつくってみます。クライアントに提案（プレゼンテーション）することを通じ、リサーチの仕方や案件に対する気遣いなどを具体的に学びます。授業内では必要に応じ、ゲスト講師をお招きします。	クリエイティブファクト株式会社
色彩	プロのデザイナーやアーティストは、正しい理論の裏付けを持って色彩に携わることが必要です。色彩論については主に近代からこれまで、化学的な面、生理学的な面、心理学的な面からの学問が進み、それぞれが関連しあう体系が確立されてきました。この授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて行われている「ADEC色彩士検定」の教材を用い、色が知覚されるしくみから色彩調和に必要な配色技法までを講義と演習により学びます。ADEC色彩士検定3級相当の基礎知識を理論の習得、ADEC色彩士検定3級取得を目指します。また、デジタルワークにおけるカラーの取り扱いスキル「カラーマネジメントシステム」の基礎について、本校の実践的な教育課程に協力連携していただいている外部企業からの派遣講師により学びます。	長野県デザイン振興協会
6次デザイン	企業からの講師派遣による授業です。須高地域（須坂市、小布施町、高山村）と連携し、現存する問題点とクリエイティブによる解決策を考えます。まずは4月に長野駅で開催される観光PRイベントに参加し、ワークショップやアンケートなどを通じて調査・研究します。その後、企画・デザイン案を制作してそれを実施することでクリエイターとしての実践的な力を身につけます。	長野県デザイン振興協会 須坂市観光協会
ライン別ゼミ	1年次、2年次合同によるゼミ編成のもと、総合制作における制作物の完成を前提とした実技演習を中心とした学びを行う。各ゼミにおける授業スケジュールは、ラインごとの専門性によって異なります。	クリエイティブファクト株式会社 有限会社アドフォート・トリム 長野県デザイン振興協会 長野県 NPO法人 長野国際友好協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行なっていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

長野美術専門学校教職員研修規則に定める教員研修は、専攻分野の専門性の学びについて、学生の就職先などの進路への通用性や分野動向への対応性、及び職業人として求められる人間力を教員自身が調べ学び、企業等の人材需要に応じていくために企業等との連携により実践性を踏まえて行なう。また職業人育成のための教育的知識・指導力を高める目的で、本校の教育活動に適した教育理論や技術の研修を行なう。研修の取り組みにあたっては、教科運営を行なう立場から教務がこれらの目的を賄う成果をあげるため、教科会、主任会、職員会等に働きかけ学校全体としての活動となるよう先導するものとする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・「PDF入稿基礎講座」連携先企業での富士ゼロックス長野株式会社の担当者による印刷物入稿データ作成の研修に参加（平成28年11月24日）

②指導力の修得・向上のための研修等

・「教師は黒子だ！～長商デパートでの実践から学ぶ主体性の引き出し方～」長野県松代高等学校 教諭 和田邦彦氏による研修（平成28年12月6日・13日）

・「キャリア指導の目的と進め方」NPO法人夢のデザイン塾 副理事長 松井秀夫氏による研修（平成29年6月23日・27日・7月14日）

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

富士ゼロックス長野株式会社によるアプリケーション教育等の研修を予定

②指導力の修得・向上のための研修等

教職員の指導力向上を目的とする研修を今後も継続する

4. 「学校教育法施行規程第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校と連携授業等で関係している企業や学識経験者、本校学生保護者、卒業生から選ばれた委員による学校関係者評価委員会を設置し、本校の自己点検・評価の結果が適切かどうか、またその結果を踏まえた今後の改善方策が適切化どうか等の評価を行い、今後の学校運営改善ための参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ・特色ある職業教育を行っている ・適切な学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが教員・学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する職業のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか ・教育理念・育成人材像・業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベル、学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を（本務・兼務を含め）確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか。
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育改善に活用しているか
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、校外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善につとめているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果は「学校関係者評価報告書」としてまとめ、その内容について広く公表周知していくとともに、以後、学校運営のために計画的に活用している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年10月31日現在

氏名	所属	任期	種別※
松井 秀夫	NPO法人夢のデザイン塾	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	業界団体等委員
大久保 清一	有限会社サンライズ	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
基井 照明	株式会社日商印刷	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
村澤 優子	平成29年度在校生保護者	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	保護者
宮澤 理恵	平成20年度卒業生	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	卒業生
和田 邦彦	長野県松代高等学校	平成29年5月1日 ～平成30年3月31日(1年)	高校教諭

※学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・毎年度12月末

URL: <http://www.n-bisen.ac.jp/disclosure/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報公開に関わる法令に基づき情報提供を積極的に行い、社会への説明責任を果たすとともに、学校情報の周知に努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が認定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	理念、教育目標、沿革
(2) 各学科等の教育	教育課程、主な授業、入学情報
(3) 教職員	担当授業科目、客員講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、インターンシップ、社会学連携活動、卒業
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動、施設
(6) 学生の生活支援	学生生活
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、減免制度、奨学金制度
(8) 学校の財務	決算書
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学校主催プロジェクト、付帯事業

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.n-bisen.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 職業実践専門課程 ビジュアルデザイン科2年制) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			キャリア講座A	個人、グループ、全体で行うワークショップを通して、自己を探求します。講義だけでなく体を動かすワークショップも実施します。インターンシップでは働く姿から仕事に対する姿勢を学び実践します。自己を見つめ、ふりかえり、学びに対する目的を確認し、将来のビジョンの創造性につなげることを目標とします。	1・前・後	48	3	○	○		○	○	○		○	
○			キャリア講座B	個人、グループ、全体で行うワークショップを通して、目的のために協働することを身につけます。講義だけでなく、体を動かすワークショップも実施します。また、自己のビジョンを創造する機会として、インターンシップを行いません。より広い社会に関わることができる自己を発見することを目標とします。	2・前・後	48	3	○	○		○	○	○		○	
○			プロジェクト考察	企業からの講師派遣による授業です。毎回、講義形式で授業を行います。授業では実際に取り組まれたさまざまなプロジェクトを紹介し、どのようにクリエイティブが発動されたのかを考え、活動の目的や意義を掘り下げていきます。また具体的な事例から組織的な協働について学びます。	2・前	16	1	○	△		○				○	○
		○	アート研究	毎回、各時代の名作といわれる美術作品の中から数点をピックアップしその主題や歴史的な流れ、技法やコンセプトなどといった基本的な鑑賞ポイントを一緒に確認していきます。講義で取り上げる作品は美術検定3級に基づき美術検定3級の取得をめざします。美術作品の読み解き方を学び、観察眼を鍛えることで、「アートを鑑賞する」という枠組みをこえて、自分自身の制作を進める上でも重要な能力となるでしょう。	2・後	16	1	○	△		○		○			
	○		美術学習論	「デザイン」「アート」を身体と五感を駆使して一次体験することで、美術教育を解釈し美術の学びの理解へとつなげます。課題の講評では各人のプロセスに着目し、どのような学びを得たかを評価します。幼い頃に誰もがこなしてきた(であろう)一次体験を「デザイン」「アート」を通してもう一度ここで自覚的に経験することで見識を深め、自分の個性の発見・開発をすすめる手がかりとなることを目指します。	1・前	16	1	○	△		○		○	○		
		○	美術学習論特講A	長野美術専門学校付帯事業である「ながのこども美術学校」のこども美術の授業で、ながのこども美術学校のスタッフとして受講します。こどもたちとの触れ合いや送迎時における保護者の方との関わり、スタッフ 同士や講師との連結によって、社会性、コミュニケーション力を養います。各クラスの講座内容を学生自身も体験することにより、美術教育の意義を体得します。講座前後30分を設営準備、後片付けの時間とし、計3時間の授業となります。設営準備では当日の内容確認ミーティングを、後片付けでは当日の反省会等を毎回行ない、講師とスタッフ間の連携を大切にすることにより、スタッフとして講座運営を円滑にするための学びも経験できます。	1・前・後	64	4	○	△		○		○	○		
		○	美術学習論特講B	長野美術専門学校付帯事業である「ながのこども美術学校」のこども美術の授業で、ながのこども美術学校のスタッフとして受講します。こどもたちとの触れ合いや送迎時における保護者の方との関わり、スタッフ 同士や講師との連結によって、社会性、コミュニケーション力を養います。各クラスの講座内容を学生自身も体験することにより、美術教育の意義を体得します。講座前後30分を設営準備、後片付けの時間とし、計3時間の授業となります。設営準備では当日の内容確認ミーティングを、後片付けでは当日の反省会等を毎回行ない、講師とスタッフ間の連携を大切にすることにより、スタッフとして講座運営を円滑にするための学びも経験できます。	2・前・後	64	4	○	△		○		○	○		
		○	DTP理論	クリエイター認定試験へ向けて、IllustratorとPhotoshopを使って実践的な作業を学びます。PDFの知識も学びます。クリエイター認定試験での資格取得を目指します。長野県デザイン振興協会との連携学習をおこないます。	2・前・後	32	2	○	△		○			○	○	

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 職業実践専門課程 ビジュアルデザイン科2年制) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			色彩	プロのデザイナーやアーティストは、正しい理論の裏付けを持って色彩に携わることが必要です。色彩論については主に近代からこれまで、化学的な面、生理学的な面、心理学的な面からの学問が進み、それぞれが関連しあう体系が確立されてきました。この授業では、日本色彩研究所の研究に基づいて行われている「ADEC色彩士検定」の教材を用い、色が知覚されるしくみから色彩調和に必要な配色技法までを講義と演習により学びます。ADEC色彩士検定3級相当の基礎知識を理論の習得、ADEC色彩士検定3級取得を目指します。	1・前	16	1	○	△		○			○	○
	○条		映像理論	映画史概要と映像制作の流れから始めて映像表現のための基礎知識や基本的な手法を学びます。	2・前・後	32	2	○	△		○			○	
○			クリエイティブワーク 総論A	毎回異なる本校の教員や外部講師を約月1回のペースでゲストに呼び、自身の職業やこれまでのキャリアについてのプレゼンテーションを受けます。そのことで、自分自身が履修している科目が何のために必要なのか、将来どのように結びついていくのかを考え、クリエイティブの学びの理解を深めます。	1・前・後	32	2	○	△		○			○	○
○			クリエイティブワーク 総論B	毎回異なる本校の教員や外部講師を約月1回のペースでゲストに呼び、自身の職業やこれまでのキャリアについてのプレゼンテーションを受けます。そのことで、自分自身が履修している科目が何のために必要なのか、将来どのように結びついていくのかを考え、クリエイティブの学びの理解を深めます。	2・前・後	32	2	○	△		○			○	○
		○	ディスプレイデザインA	情報化時代と言われる現代社会では、流通経路を的確に築きあげ、効果的な情報を与え、その時代の流れに乗ったイメージ操作と消費者の心をとらえる販売活動が行われたい限り商品は売れるものではありません。商品を展開する売り場空間の活性化を図る為、単に「きれいに物（商品）を並べる」ということではなく、幅広い知識と造形力、感性、時代情報が必須となります。本科目では、テキストや実際の仕事の資料を使用し、売り場づくりの基礎知識を学びます。また、ラッピングペーパー等の演出テクニック、外に出るVMDマップ(ショッピングリサーチ)や、卓上で の簡単なディスプレイを実施し、それに沿った「演出計画書」を制作します。こうした講義と演習を通して、専門の知識、技術、アイデア、デザイン、クリエイティブの総合的な力をつけたプロデュースの出来る人材育成をめざします。	2・後	32	2	○	△		○			○	
		○	WEB理論	書籍「新米IT担当者のための Webサイト しくみ・構築・運営がしっかりわかる本」を基となる情報とします。学生の進み具合をチェックして、秩序立った勉強ができる「チェックシート」に読んだページごとにサインしてもらい、知識を得たという確信を深めてもらいます。エッセイ、課題などを毎回提出してもらい、学生の自発的な興味を促します。場合により、パソコンで実際の画面を見たり、講師の制作物などで説明をします。基本的には各学生それぞれに対して必要と思われるレクチャーをそれぞれに対して行います。	2・後	16	1	○	△		○			○	
		○	キャラクター概論	キャラクターというものがどう世間に浸透し、使われているか、それぞれの役割を学生からの意見を主に検証する。後半では、前半の授業内容を受けて班ごとにオリジナルのゆるキャラ（ご当地キャラ）を制作する。人気投票も検討。	1・後	16	1	○	△		○			○	

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 職業実践専門課程 ビジュアルデザイン科2年制) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
		○	モーショングラフィックス	Aftereffectsを使いながら、モーショングラフィックスの様々な映像表現を知り学びます。 アニメーションやエフェクト・カメラワークなど、それを用いることで一体どんな表現ができるのか作品を見たり実際にソフトを触りながら体験します。 また授業ではゲスト講師をお呼びしその制作物なども鑑賞します。	2・後	16	1	○	△		○		○	○		
		○	マンガ概論	マンガの手法を演習し、その成果物をディスカッションします。また自身が感じる魅力的なマンガを観察、洞察、プレゼンテーションすることで、より造詣を深めます。	1・前	16	1	○	△		○				○	
		○	ビジネスデザイン	一般にデザインワークというと、審美的な見た目の美しさや奇抜さなどに重点が置かれがちです。しかし、それ以前にデザインワークは機能的でなければなりません。 本授業では、主にWordやExcelなどのビジネスソフトを使った演習をとおし、ビジネス文書や企画書の制作法を学びます。こうした各文書の作成法、つまり情報の整理術や情報を正しく伝える作法といった学びから、イベントの立案力の獲得をめざします。	1・前	16	1	○	△		○			○		
○			グラフィックデザイン 基礎A	レタリングでデザインの造形基礎力を学びます。 基本書体の明朝体とゴシック体を鉛筆の手書きでお手本通りに形成するレタリングを繰り返していきます。また文字の骨組みである字体を速く、正しく描く練習も重ねて行います。 後半では仮名交じりロコタイプや英字ロコタイプの制作に取り組みます。 レタリング検定3級取得を目指します。	1・前	30	1			○	○			○		
○			グラフィックデザイン 基礎B	IllustratorとPhotoshopの基本機能習得とDTPデータの作り方の知識を学び、印刷物のデータを作成できるまでのスキルを身につける。	1・前	60	2			○	○			○	○	
		○	グラフィックデザイン 基礎C	文字組の概念（大きさ、書体、行間など）を学び、視覚的に伝えることを意識したレイアウト演習を行います。	1・後	60	2			○	○				○	
○			ビジュアル表現	視覚造形の基礎を学びながら、個性的な発想・個性的な表現を誘導していきます。 授業では、紙と筆記用具をベースに実際に手を動かすことを重視し創作していきます。 各授業のはじめには発想トレーニングをします。	1・前	30	1			○	○				○	
○			デッサン	デッサンは様々な造形表現の基本的な演習です。まずは透視図法を理解し、かたちが正確に描けること。そしてどうしたら立体感が出せるか、平面の上に鉛筆を使って、三次元の空間を再現することをします。	1・前	60	2			○	○				○	

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 職業実践専門課程 ビジュアルデザイン科2年制) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プロジェクトワーク演習	架空のクライアントからの依頼を受け、それを元に組織的に企画案をつくって見ます。クライアントに提案(プレゼンテーション)することを通し、リサーチの仕方や案件に対する気遣いなどを具体的に学びます。授業内では必要に応じ、ゲスト講師をお招きします。	2・前	30	1			○	○		○	○	○
		○	グラフィックデザイン	商品ロゴパッケージ制作→広告制作と、一連のビジュアルデザインの演習を行います。	2・前	60	2				○			○	
		○	アニメ動画表現	企画から制作までの映像制作の流れを理解するために、各分野の講師陣をゲストにお呼びし、様々な映像事例を見たり、制作実習・現場実習をとおして、実際の映像業界の仕組みや制作工程を経験する。	2・前	60	2				○	○	○		○
		○	6次デザイン	須高地域(須坂市、小布施町、高山村)と連携し、現存する問題点とクリエイティブによる解決策を考えます。まずは4月に長野駅で開催される観光PRイベントに参加し、ワークショップやアンケートなどを通じて調査・研究します。その後、企画・デザイン案を制作してそれを実施することでクリエイターとしての実践的な力を身につけます。	2・前	30	1				○	○	○		○
		○	写真表現	本授業はデジタルワークとアナログワークの2本立てとなります。 デジタルワーク：デジタルカメラによるスタジオ撮影と、オンラインサービスを利用してのデジタルアルバム制作を行います。 アナログワーク：モノクロフィルムでの撮影、現像、暗室での作業を行います。 6/22～29には写真展(予定・会場未定)にて、モノクロ写真数点とデジタルアルバム展示をします。授業期間内にDMなどの制作もを行います。フォトマスター検定試験(11月)過去問題集を参考とし、3級以上合格を目指します。	2・前	30	2				○	○	○		○
		○	イラストレーション	明確な制作物の設定をすることでイラストの意識を高めます。幅広く考える力をつけ、自分らしい表現方法を確立していきます。	2・前	30	1				○	○			○
○			ライン別ゼミA	1年次、2年次合同によるゼミ編成のもと、総合制作における制作物の完成を前提とした実技演習を中心とした学びを行う。各ゼミにおける授業スケジュールは、ラインごとの専門性によって異なります。	1・後	150	5				○	○	○	○	○
○			ライン別ゼミB	1年次、2年次合同によるゼミ編成のもと、総合制作における制作物の完成を前提とした実技演習を中心とした学びを行う。各ゼミにおける授業スケジュールは、ラインごとの専門性によって異なります。	2・後	150	5				○	○	○	○	○

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 職業実践専門課程 ビジュアルデザイン科2年制) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	キャリアアップ実習	このインターンシップでは夏期授業期間に約1ヶ月間都会生活をしながら職場実習を行います。インターン先は東京銀座にある「日本デザインセンター」。日本有数の産業を営むクライアントとの深い関わりを持ちながら、我が国にデザイン文化を打ち立ててきた日本最大級のデザインプロダクションです。 長野美術専門学校では学校長が出身者であり、特別講師の上原昌先生の活躍も往年の同社の業績を支えて来ました。このような縁からインターン生の受け入れを承諾いただくことが出来ましたので、全学科全学年から選択希望を受け付けます。希望した学生の中から選考して2名がこのインターンシップに参加できます。 「原研哉」をはじめとした、日本をリードする数多くのデザイナーと一緒に職場で実習しましょう。	2・前	150	5			○		○	○		○
	○条		プロモーションワーク A	自分の制作物を伝える場である「美専展」の計画及び運営を行います。チームを作り、学生が協働して展覧会を開催します。	1・後	120	4			○	○	○	○	○	
	○条		プロモーションワーク B	自分の制作物を伝える場である「美専展」の計画及び運営を行います。チームを作り、学生が協働して展覧会を開催します。	2・後	120	4			○	○	○	○	○	
○			総合制作 1	1年間の学びの集大成としての制作物に取り組みます。 「美専修学ライン」に沿い、VD科は「デザインライン」と「イラストレーションライン」の2つから選択し、出題されたテーマに基づき、アイデアを練りながら企画書を作成します。 この企画書を足掛かりとして制作をはじめます。必要によって講師に相談やサポートを要請し、自身の制作における問題解決の補助とします。 また、制作物は『学内展示』を前提とし制作を進め「合同講評会」では制作物についてプレゼンテーションを行います。 充実した制作期間となるよう主体的に取り組みます。	1・後	240	8			○	○		○	○	
○			総合制作 2	2年間の学びの集大成としての制作物に取り組みます。 「美専修学ライン」に沿い、VD科は「デザインライン」、「映像ライン」、「イラストレーションライン」の3つから選択し、出題されたテーマに基づき、アイデアを練りながら企画書を作成します。 この企画書を足掛かりとして制作をはじめます。必要によって講師に相談やサポートを要請し、自身の制作における問題解決の補助とします。 また、制作物は『学内展示』を前提とし制作を進め「合同講評会」では制作物についてプレゼンテーションを行います。 充実した制作期間となるよう主体的に取り組みます。	2・後	240	8			○	○		○	○	
合計				36科目											2, 208単位時間(89単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
2年以上の在籍期間。 本校の履修規定に従って履修登録をし、1, 700単位時間及び62単位を修得したのに対し、学校長が卒業認定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週